

令和8年3月22日

R7年度 第2回

# 在宅医療介護連携推進連絡協議会

---

## 第1部 岐阜県医師会在宅医療関連事業 事業報告

- ・ 岐阜県在宅医療推進センター運営事業
- ・ 在宅療養あんしん病床確保事業

岐阜県医師会常務理事 佐竹 真一

# 岐阜県在宅医療推進センター運営事業

## ○事業の目的と実施体制

目的：在宅医療を担う従事者等の人材育成、多職種連携の促進、地域の実情に応じた在宅医療提供体制の構築。

### 4つの柱（実施事業の概要）

①

在宅医療介護連携  
推進連絡協議会  
の開催

②

在宅医療  
地域連携体制構築  
助成事業

③

在宅医療  
地域連携強化研修会  
の開催

④

在宅医療ACP  
普及啓発事業

# ① 在宅医療介護連携推進連絡協議会

目的：地域医師会と市町村・コーディネーター等との情報共有・連携強化。

第1回 令和7年6月30日（オンライン）

参加対象：医師会在宅医療担当役員

本会の事業計画の説明、各地域医師会における看取りバックアップ体制や医療機関のグループ化等の取り組み状況の共有。

第2回 令和8年3月22日（ハイブリッド）

参加対象：医師会役員、市町村、コーディネーター等

事業報告、助成事業実施12団体による取組報告、「協議の場の構築」をテーマとしたグループワーク。

## ② 在宅医療地域連携体制構築助成事業（概要）

**目的：**地域医師会が中心となった医師間連携の強化、多職種・市町村との協働推進。  
**実績：**11地域医師会12団体に支援金を交付。各地域で独自の検討会や研修会を実施。

No.	実施医師会	参加者	分類	主な実施内容・テーマ
1	岐阜市医師会（長良班）	10名	看取り・グループ化	在宅医療連絡会を開催し、医師グループ化等を検討
2	岐阜市医師会（金華班）	6名	看取り・グループ化	在宅医療連絡会を開催し、医師グループ化等を検討
3	大垣市医師会	6名	看取り・グループ化	在宅医療に関わる諸問題や看取り代行について検討
4	もとす医師会	32名	看取り・グループ化	看取りバックアップ体制について検討
5	不破郡医師会	78名	多職種研修	在宅医療研修会22名、多職種研修会56名
6	揖斐郡医師会	40名	看取り・グループ化	3回の協議会。看取りバックアップシステムの運用等を検討
7	可児医師会	37名	多職種研修	在宅医療と緩和ケアの連携に関する勉強会等を実施
8	恵那医師会	27名	多職種研修	アンケートに基づく在宅医療懇話会を実施
9	各務原市医師会	39名	BCP対策	強化型在宅支援診療所連携医療機関合同研修会にてBCP対策等を協議
10	多治見市医師会	107名	ACP推進	[多治見終末期を考える会]交流会を開催。ACPや看取りのシナリオを実施
11	武儀医師会	68名	多職種研修	多職種協働による在宅トリアージ能力向上研修会を実施
12	羽島郡医師会	103名	BCP対策	災害発生時のBCP対応に関する研修会を実施

# ③ 在宅医療地域連携強化研修会の開催

## 第1回

92名

参加者数

17名

会場参加

75名

オンライン

日時：令和7年12月20日  
形式：ハイブリッド開催

テーマ：「地域の特性と在宅医療の今～多職種とともに築く連携と実践～」



講演動画・配布資料  
オンデマンド公開中▶QRまたは↓URL  
[hayabusa.gifu.med.or.jp/kenshu/.../2058/](http://hayabusa.gifu.med.or.jp/kenshu/.../2058/)

### 第1部 可児医師会における在宅医療の現状と今後の課題

可児医師会理事 アカシクリニック院長 明石 克彦 氏

- ・訪問診療医療機関わずか6か所→在宅医療研究会を設立。医師間の横連携・24時間体制を整備
- ・多職種連携「かけそばネット」で住民講演会・専門職研修・ワンコイン交流会を展開
- ・訪問往診専門クリニックの台頭が課題。「在宅医療支援ネットワーク規約」を策定し対応

### 第2部 地域医療体制と多職種連携の取り組み

～へき地医療における在宅医療体制の構築と多職種連携の実践～

高山市医師会理事 西之一色内科クリニック院長 葛谷 嘉久 氏

- ・東京都と同面積の高山市。移動診療車（医療MaaS）を2024年12月より実証運用開始
- ・「高山市・白川村在宅医療を考える会」でACP普及・事例検討を多職種で実施
- ・医師高齢化・減少が深刻。国保診療所7か所・出張所3か所までへき地をカバー

# ③ 在宅医療地域連携強化研修会の開催

第2回

95名

参加者数

27名

会場参加

68名

オンライン

日時：令和8年2月8日  
形式：ハイブリッド開催

テーマ：「地域連携強化 — 病院から在宅への円滑な移行をめざして —」



## シンポジウム：「入退院支援と地域医療連携の実際」

座長：岐阜県医師会 常務理事 佐竹 真一

「病診連携実態調査の結果を踏まえ、かかりつけ医と病院のつながりをいかに守るか、ともに考えたい」

### 病院側の取組

#### 岐阜市民病院 地域連携部長

岩田 圭介氏

退院時にかかりつけ医へ情報共有・在宅対応可否を確認。末期がんのACP含む退院調整を実施

#### 岐阜県総合医療センター

島津弘美・古田明美氏

PFMで入院前～退院後を一貫支援。退院前合同カンファにかかりつけ医も招集

#### 大垣市民病院 MSW

高田 敦人氏

「OMNet」でかかりつけ医へ詳細情報提供。退院カンファにかかりつけ医のリモート参加も促進

### 在宅医からの提言

#### 大垣市医師会長 沼口 医院院長

沼口 諭氏

「2人主治医制度」の推進と独自ICT「芭蕉@在宅ネット」で看取り連携を構築

#### 武儀医師会長 平岡 医院

平岡 哲也氏

MCSで病診連携を効率化。患者の「主治医決定権」を守ることの重要性を提言



講演動画・配布資料

オンデマンド公開中 ▶ QRまたは↓URL

[hayabusa.gifu.med.or.jp/kenshu/.../2115/](http://hayabusa.gifu.med.or.jp/kenshu/.../2115/)

# ④ 在宅医療ACP普及啓発事業

## 岐阜県医師会版「これからノート」の作成・配布

目的：県民へのACP普及と、医療介護従事者の実践力強化。

8,000冊

令和6年3月 印刷・配布

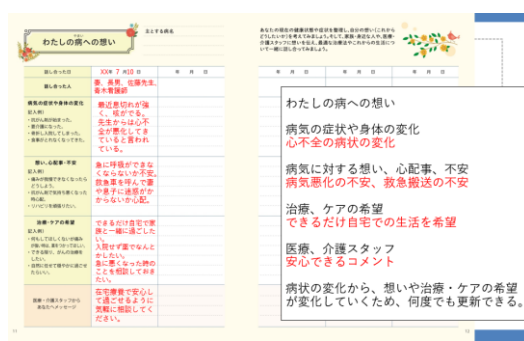
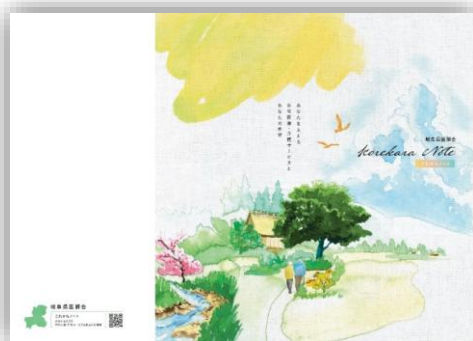
10,000冊

令和6年6月 増刷・配布

10,000冊

令和6年11月 増刷・配布

合計：28,000冊を印刷・配布し、地域全体へのACP普及を推進



### 【これからノート ご使用の感想をお聞かせください】

〇「これからノート」を使用した医療・介護従事者、行政関係者、県民の皆様からご感想を募集しております。ぜひ、ご意見をお聞かせください。

・これからノート ご感想フォーム  
<https://forms.gle/LPGMWVdrB96AwMGk9>



### 【これからノート 冊子送付について】

〇冊子の送付をご希望の場合は、下記申込フォームよりお申込みください。

・冊子送付の申込みフォーム  
<https://forms.gle/iowf3xbhQkdGADMDA>



# 「これからノート」活用研修会

令和7年8月31日（日） 岐阜県医師会館

77名

参加者数

15名

医師

25名

看護師

37名

その他職種

令和7年8月31日  
形式：対面開催



レポート公開中

テーマ：「"これからノート"でつなぐ意思決定支援と多職種連携の実践」

## 第1部 「"これからノート"の症例別活用法について」

岐阜県医師会 常務理事 佐竹 真一 氏

症例①

### 80歳男性・慢性心不全

「入院を望まない」とノートに記録。家族と共有済みで救急搬送の是非を迷わず判断できる。

症例②

### 65歳男性・がん終末期

「苦痛最小限」の希望をチーム全体で共有。意識低下時も「最期は自宅で」の方針を守る。

症例③

### 70歳女性・中等度認知症

「自宅が落ち着く」という本人の言葉を記録。ケアマネや施設職員が意思を尊重した支援計画を立てやすい。

◆活用シーン：自宅療養・入院・意思疎通困難時・延命処置・看取りの希望など幅広い場面で活用可。医師・訪問看護師・ケアマネなどの立場からでも渡せる。

## 第2部 グループワーク「"これからノート"を使った意思決定支援と連携実践」

県北西部地域医療センター長 兼 国保白鳥病院院長補佐 後藤 忠雄 氏（自治医科大学教授）

GW①

### どんな場面でノートを渡すか？

「渡す役」「渡される役」「観覧者」の3人1組でロールプレイ。「優しい声で」「全部書かなくてよいと伝えると安心」等の気づきを共有。

GW②

### 患者宅のカンファレンスを再現

即席劇団「けんぎふいの会」が模擬症例を披露。本人・家族・かかりつけ医・訪問看護師・ケアマネがロールプレイ形式で連携実践を再現。

GW③

### 「これからノート」の活用を考える

「在宅療養者との交換日記にしたい」「妻へのラブレター・子どもへの贈り物になる」「書けるところから書いてもらう」など多彩な視点が出た。

◀「これからノート」は本人・家族・専門家との双方向のノート。どう生き、どう逝くかを話し合うためのツール（後藤先生）

# 各市町村におけるACP普及啓発講演の実施

市町村・地域医師会から本会に講演依頼があり、県民向け・医療介護従事者向けに講演を実施。

時期	地域	対象	演題
令和7年11月	不破郡	医療介護従事者	ACPの実践・これから ノートの症例別活用法
令和8年1月	本巣市	県民向け	これからノートで考える わたしの未来設計と人生会議（※大雪警報で中止）
令和8年2月	岐阜県鍼灸師マッサージ師会	県民・専門職向け	これからノートで考える わたしの未来設計と人生会議
令和8年2月	土岐市	医療介護従事者	「これからノート」で人生会議 ～土岐市における実践のヒント 意思を尊重したケアを実現するために～

## 講演内容

- ▶ ACPの重要性と「これからノート」の実践的活用
- ▶ 心肺蘇生不実施指示（DNAR）の意義と救急対応
- ▶ 模擬症例（がん末期・心不全・認知症）による対話演習
- ▶ 多職種連携と地域包括ケアにおけるACPの位置づけ

# 在宅療養あんしん病床確保事業

令和7年度 実績報告

目的：在宅療養中の患者が急変・入院が必要な際に、登録医（かかりつけ医）からの依頼で迅速に入院できる病床を確保する事業。  
詳細は【はやぶさネット・在宅医療の取組】に掲載。

## 69件

入院報告件数  
令和7年度

## 21機関

登録医（かかりつけ医）

## 14機関

受入医療機関  
県内各地

## 79.9歳

利用者平均年齢  
44～104歳

### 在院日数

## 29.5日

平均在院日数

## 1日

最短

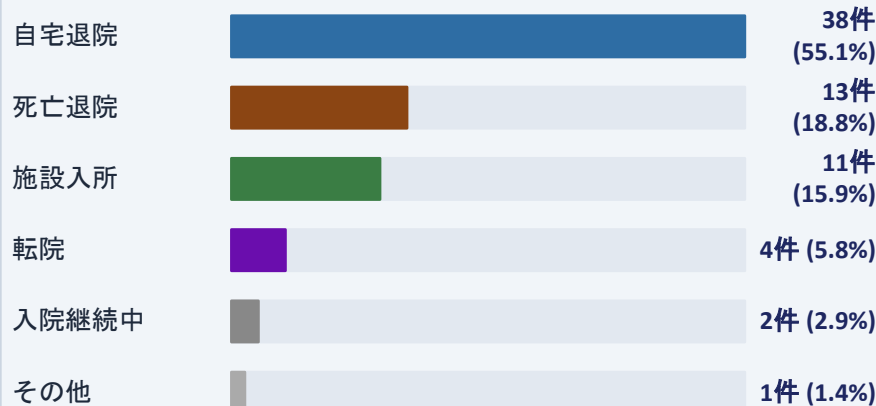
## 152日

最長

※ 入院継続中・退院日未回答の2件を除く67件で算出

利用者年齢：44～104歳（最高齢104歳）

### 退院先の内訳



# 在宅療養あんしん病床確保事業 登録医アンケート結果

令和8年2月～3月実施（対象：本事業を活用した登録医）

Q2. 患者・家族からの苦情：「あり」0件 / 「なし」13件 → **苦情ゼロ**（回答13機関／本事業を利用した登録医21機関）

## Q1. 利用してよかった点・連携が進んだ点（自由記述）

### スムーズな入院

入退院がスムーズで、入院手続きの負担が大幅に軽減された。

### 家族の安心

独居・家族介助困難な患者に喜ばれた。家族の負担が減少した。

### 看取り支援

家族と情報共有・話し合いができ、看取り目的で退院することができた。

### 病診連携の深化

在宅患者の病床を確保でき、病院との連携が深まった。退院後も当院への通院が継続できる。

### 安心のバックベッド

何かあった時にバックベッドがある安心感がある。相談窓口が明確で連携しやすい。

### 急変対応

患者急変時に病院への連携が円滑で、入院・検査を安心して紹介できた。

## Q3. 改善・要望（自由記述）

### 認知度向上

「本事業を認識していなかった」との声が複数。広報・周知の強化が必要。

### 退院報告の充実

「入院時の連絡はある。退院の報告もあるとよい」との要望。

### 緊急時対応

「緊急時にも使えるとよい」との要望。適用範囲の拡大を検討。

### 事業の継続

「在宅療養・訪問診療の普及に伴い、本事業の継続をお願いしたい」。

### 選択肢の整理

「医療機関が限定されていない点はメリットだが、選定しづらさもあった」。

### 利用拡大

「他院でも本システムが利用できれば、患者の選択肢が広がる」との意見。

## アンケートから見た課題と対応の方向性

① 認知度向上：未活用登録医への個別周知・説明機会を設定

③ 受入病院の拡充：飛騨・中濃圏域への受入医療機関の確保

② 退院連携の強化：退院報告の仕組み化・カンファレンス実施率向上

④ 事業の継続・発展：在宅療養・訪問診療普及に対応した制度維持